登録NO. 10b

レジメンオーダ登録確認表

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	内科	部長:吉田 昌弘		胃癌	S-1+CDDP (入院用)
作成/確認	薬剤部	藤井友和/西川隆一・辻博幸	/	1 クール 3 5 日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2 3	4	5	6 7	8	9	10	11 1	2 1	3 1	4 15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26 2	27 2	8 2	9 3	31
ティーエスワン	S-1	80 mg/m^2	経口投与	朝夕食後		$ \downarrow $	$\downarrow \downarrow \downarrow$.	\downarrow	1 1		1	\downarrow	\downarrow	$\downarrow \mid \downarrow$	1 1	.	1	1	↓	↓	\downarrow	\downarrow		~	1	4	日間	引休	薬	~	
シスプ゜ラチン	CDDP	60 mg/m ²	点滴静注	2時間							Ţ																					
〈TS-1投与量〉 1.25㎡未満 1.25㎡以上~ 1.5㎡未満 1.5㎡以上	100m	g/day g/day g/day			シード Firm 開	スプ 5-1開 始 B	^プ ラチ 開始: ヨ 」に	ンの 後の 設っ	り投)Da 定し	 シ シ シ シ シ シ シ シ シ シ シ シ シ シ シ シ シ シ	3が D日 ださ	見が 付る い。	かけをレ	上C ジメ お、	ay ファ ンァ 1ク	1に トー ーノ	登 ダ レ3	録し 上て 5 E	てごシ	あスた	Jま プラ め、	す。チンシ	ンσ.									
							12 -	F1安			·フォ	⊠ Д. Т		BILA	.34	Т	I — E.	Z /L		Ca)"	<i>چ</i> ۶	0									

R	○ 補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
1	ソルテ゛ム1輸液 1500mL		8時間(メイン)
2		7ロカリス 1V + デキサ−ト 3.3mg 3A	30分(側管)
3		フラッシュ用	適宜(側管)
4	生理食塩液 250mL	シスプ [°] ラチン 60mg/m ² (day8)	2時間(側管)
5	ัวม ร ั 43A 1000mL		3時間(側管)
6			
7			
8			
g			
1			

	特 記 事	項
休薬・減量・中止基準		2以上の血液・非血液毒性 D血液毒性およびGrade3以上の過敏症
主な副作用とその対策	•	拮抗薬+ステロイドの前投薬 (2, 000mL~3, 000mL)
注意事項	・TS-1内服開始7 を確認すること。	日以内に禁忌薬の処方が無いこと
主要文献	•Koizumi W, et 12.	al. Br J Cancer 2003;89:2207-

登録NO. 11b

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	内科	部長:吉田 昌弘		胃癌	S-1+CDDP (外来用)
作成/確認	薬剤部	藤井友和/西川隆一・辻博幸	/	1 クール 3 5 日間	標準施行回数 : 有効時継続

	薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2 3	4	5	6	7 8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23 2	24 2	25 2	26 2	7 28	3 29	30	31
CTS-1投与量>	ティーエスワン	S-1	80 mg/m^2	経口投与	朝夕食後		\downarrow	\downarrow	1	\downarrow	↓ .	l l	.	1	\downarrow	\downarrow	\downarrow	\downarrow	\downarrow	\downarrow	\downarrow	\downarrow	\downarrow	\downarrow	\downarrow		~	1	4	日間	休	薬	~	1
1.25㎡未満 80mg/day	シスプ゜ラチン	CDDP	60 mg/m ²	点滴静注	2時間							ļ	,																					·······
	1.25㎡未満 1.25㎡以上~ 1.5㎡未満	100m	g/day				 シ 円 開	·スフ S−1 開始 E	^{プララ} 開始 ヨ 」(:	Fン i後 こ設	の投 のDa 定定し	と ay8 ノてく	日か の E くだ:	が見 日 作 さし	!か! けを! い 。た	けしい	LD ジメ: S、1	ay [*] ンオ 1ク・	1に 	登 ダ ₋ レ3	録し 上で 5 E	して でシ ヨ <i>0</i>	あったった	り プ つ	ます ラチ シ	-。 - ン	の プ							

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
1	ሃルデム3A 1500mL		6時間(メイン)
2	グラニセトロン 3mg/100mL	7ロカリス 1V + デキサ−ト 3.3mg 3A	30分(側管)
3	生理食塩液 50mL	フラッシュ用	適宜(側管)
4		シスプ [°] ラチン 60mg/m ² (day8)	2時間(側管)
5			
6			
7			
8			
9			
11			

	特 記	事	項
休薬・減量・中止基準			上の血液・非血液毒性 液毒性およびGrade3以上の過敏症
主な副作用とその対策		•	亢薬+ステロイドの前投薬 000mL~3, 000mL)
注意事項	・TS-1内服 を確認する		以内に禁忌薬の処方が無いこと
主要文献	•Koizumi W 12.	l, et al.	Br J Cancer 2003;89:2207-

登録年月日 2015/1/1

レジメンオーダ登録確認表

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	内科	部長:吉田 昌弘		胃癌	S-1 + w-PTX
作成/確認	薬剤部	藤井友和/西川隆一・辻博幸	/	1クール 21 日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1 2	2 3	4	5 (3 7	8	9 1	0 11	12	13 1	14 1	5 16	17 1	8 19	20 21	22	23	24 2	5 20	6 27	28	29	30 3
ティーエスワン	S-1	80 mg/m^2	経口投与	朝夕食後		1 1	↓ ↓	1	↓ .	l ↓	1	1	l ↓	1	1	\downarrow	~	休	薬	~	1	\downarrow	↓ .	l l	1	1	\downarrow	1
パクリタキセル	PTX	50 mg/m^2	点滴静注	1時間		↓					Ţ										Ţ						ļ	
************************************	100m	g/day g/day g/day																										

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
1	_	レスタミン錠10mg 5錠	PTX開始30分前内服
2	生理食塩液 100mL	デキサート 3.3mg 3A	30分
3		ファモチシ゛ン 20mg 1A	30分
4	生理食塩液 250mL	ハ゜クリタキセル 50 mg/m²	1時間
5			
6			
7			
8			
9			
10			

	特 記 事 項
休薬・減量・中止基準	減量・休薬:Grade2以上の血液・非血液毒性 中止:Grade3以上の血液毒性およびGrade3以上の過敏症
主な副作用とその対策	・悪心嘔吐:ステロイドの前投薬 ・過敏反応:H1、H2拮抗薬+ステロイドの前投薬
注意事項	・PTXはDEHPフリーのフィルター付きラインで点滴 ・TS-1内服開始7日以内に禁忌薬の処方が無いこと を確認すること。
主要文献	• N. Sugimoto, et al. 2014 ANTICANCER RESEARCH 34:851-858

登録NO. 131b

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	内科	部長:吉田 昌弘		胃癌	S-1 + 3w-DTX
作成/確認	薬剤部	藤井友和/西川隆一・辻博幸	/	1 クール 2 1 日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2 3	4	5	6 7	8	9 1	0 11	12	13	14 1	5 16	17 1	8 19	20 21	1 22	23	24 2	5 26	27	28	29 3	0 31
ティーエスワン	S-1	80 mg/m^2	経口投与	朝夕食後		\downarrow	$\downarrow \downarrow$	1	1	\downarrow	1	1	$\downarrow \mid \downarrow$	\downarrow	1	1	~	休	薬	~	\downarrow	1	1	.	1	1	1	$\downarrow \mid \downarrow \mid$
ドセタキセル	DTX	40 mg/m^2	点滴静注	1時間		↓ I															Ţ							
************************************	100m	g/day g/day g/day																										
		5/ day																										

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
1	生理食塩液 100mL	デキサート 3.3mg 2A	30分
2	生理食塩液 250mL	ドセタキセル 40 mg/m ²	1時間
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

	特	記	事	項		
休薬・減量・中止基準					₹・非血液₹ βよびGrade	毒性 3以上の過敏症
主な副作用とその対策		區吐:ステ 症: 必 要			準じて対応	
注意事項	・泡立 ・TS-1	ちやす	いので 始7日	調製注意	意	7リーに変更 ҈□方が無いこと
主要文献		,			ASCO abs GCO abstr	**

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	内科	部長:吉田 昌弘		胃癌	S-1+CPT-11
作成/確認	薬剤部	藤井友和/西川隆一・辻博幸	/	1 クール 3 5 日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2	3 4	1 5	6	7	8 9	10	11 1	2 13	14	15 1	6 17	18	19	20 2	1 22	23	24 2	25 26	3 27	28	29 30	31
ティーエスワン	S-1	80 mg/m^2	経口投与	朝夕食後		$ \downarrow $	\downarrow	1 1	↓ ↓	\downarrow	\downarrow	1 1				\downarrow	\downarrow	$\downarrow \mid \downarrow$	1	\downarrow	1		~	1	4 E	間信	木薬	~	
イリノテカン	CPT-11	80 mg/m^2	点滴静注	90分		↓											Ţ												
(TS-1投与量) 1.25㎡未満 1.25㎡以上〜 1.5㎡未済 1.5㎡以上	莇 100	mg/day mg/day mg/day																											

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
1	グラニセトロン 3mg/100mL	デキサート3.3mg 2A	30分
2	生理食塩液 250mL	イリノテカン 80mg/m ² (day1,15)	90分
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

	特 記 事 項
休薬・減量・中止基準	減量・休薬:Grade2以上の血液・非血液毒性 中止:Grade3以上の血液毒性およびGrade3以上の過敏症
主な副作用とその対策	・悪心嘔吐:5HT ₃ 拮抗薬+ステロイドの前投薬 ・急性下痢:抗コリン薬 ・遅発性下痢:ロペラミド+半夏瀉心湯
注意事項	・遅発性の下痢に対し乳酸菌製剤の投与は避ける ・TS-1内服開始7日以内に禁忌薬の処方が無いことを確認すること。 ・イリノテカンはUGT1A1遺伝子多型の検査結果をもとに投与量を設定すること(*6もしくは*28のホモ接合体および複合へ口接合体の場合は50%に減量し、ヘテロ接合体の場合は70%に減量することを考慮)
主要文献	 Komatsu Y, et al. Proc ASCO 2002; abstract 683. Narahara H, et al. Proc ASCO 2002; 21: 170a

登録NO. 20b

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	内科	部長:吉田 昌弘		胃癌	XP (入院用)
作成/確認	薬剤部	藤井友和/西川隆一・辻博幸	/	1 クール 2 1 日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2	3	4 5	5 6	7	8	9	10	11 1	2 13	14	15 1	6 17	18	19 2	20 21	22	23	24 2	25 2	6 2	7 28	3 29	30	31
ゼローダ錠 300mg		2000 mg/m ² /日	経口投与	朝夕食後		1	1	1	1	l l	.	1	1	1	1	1	1	~	7 E	間間	休薬	~	1	\downarrow	1	1	l .	l I	1	1	1
シスプ゜ラチン	CDDP	80 mg/m^2	点滴静注	2時間		Ţ																	ļ								
<ゼローダ投与量: C2 1.36㎡未満 1.36㎡以上〜 1.66㎡ 1.66㎡以上〜 1.96㎡ 1.96㎡以上	未満 未満	回量 1200mg 回量 1500mg 回量 1800mg 1回量 2100mg																													

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
<前	日>		
1	ソルデム1輸液 2000mL		24時間(メイン)
< 1	日目>		
1	グラニセトロン 3mg/100mL	7ロカリス 1V + デキサート 3.3mg 3A	30分(側管)
2	生理食塩液 50mL		適宜(側管)
3	生理食塩液 250mL		2時間(側管)
4	ሃルデム3A 1000mL		3時間(側管)
5	ソルラクト 1000mL		12時間(側管)

	特言	3 事	項	
休薬・減量・中止基準	中止:明	かな心不	全症状が	液・非血液毒性 現れた場合 およびGrade3以上の過敏症
主な副作用とその対策	• 腎障害	: 輸液 (2,	000mL~3	(ドの前投薬 3,000mL) 、休薬、対症療法
注意事項	毒性、聴覚 ・CDDPはC	覚障害に注 Lを含まな 内服開始前	意が必要 い輸液と	いが蓄積毒性があり、神経 の配合は不可 内に禁忌薬の処方が無いこ
主要文献				引癌」 2011. p8-47 Oncol. 20∶666-673,

登録NO. 21b

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	内科	部長:吉田 昌弘		胃癌	XP (外来用)
作成/確認	薬剤部	藤井友和/西川隆一・辻博幸	/	1 クール 2 1 日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2	3	4	5 6	7	8	9	10 1	1 12	2 13	14	15 1	6 17	18	19 2	0 21	22	23	24	25	26 2	27 2	8 29	30	31
ゼローダ錠 300mg		2000 mg/m ² /日	経口投与	朝夕食後		1	1	\downarrow	\downarrow	1	1	1	1	1	$\downarrow \downarrow$	1	1	~	7 F	3間	休薬	~	\downarrow	\downarrow	↓↓	\downarrow	\downarrow	1	↓ I	1	↓
	CDDP	80 mg/m^2	点滴静注	2時間		Ţ																	ļ								
〈ゼローダ投与量:C法〉1.36㎡未満1.36㎡以上~1.66㎡未満1.66㎡以上~1.96㎡未満1.96㎡以上	1回量	1200mg 1500mg 1800mg 2100mg																													

	Rp	補液(名	称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
	1	ソルテ゛L3A	1500mL		6時間(メイン)
	2	グラニセトロン	3mg/100mL	7ロカリス 1V + デキサート 3.3mg 3A	30分(側管)
	3	生理食塩液	友 50mL	フラッシュ用	適宜(側管)
	4	生理食塩液	友 250mL	シスプ [°] ラチン 80mg/m ²	2時間(側管)

		••••			
<u></u>		••••			

	符 記 事 埧
休薬・減量・中止基準	減量・休薬:Grade2以上の血液・非血液毒性 中止:明らかな心不全症状が現れた場合 Grade3以上の血液毒性およびGrade3以上の過敏症
主な副作用とその対策	 悪心嘔吐:5HT3拮抗薬+ステロイドの前投薬 腎障害:輸液(2,000mL~3,000mL) 手足症候群:セ゚ローダの減量、休薬、対症療法
注意事項	・CDDPに総投与量の規制は無いが蓄積毒性があり、神経 毒性、聴覚障害に注意が必要 ・CDDPはCLを含まない輸液との配合は不可 ・セ゚ローダ内服開始前の7日以内に禁忌薬の処方が無いこ とを確認すること
主要文献	・セ゛ロータ゛適正使用ガイド 「胃癌」2011.p8-47 ・Kang YK., et al.:Ann. Oncol. 20:666-673, 2009

登録NO. 26b

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	内科	部長:吉田 昌弘		胃癌	SOX 100
作成/確認	薬剤部	藤井友和╱西川隆一・辻博幸	/	1クール 21日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2	3	4 {	5 6	5 7	8	9	10 1	1 12	13	14	15 1	6 17	18 1	19 20	21	22	23	24 2	5 26	3 27	28	29	30	31
ティーエスワン	S-1	80 mg/m^2	経口投与	朝夕食後		\downarrow	1	\downarrow	↓ .	1 1	.	1	1	1 1	.	1	1	~	7日	間休	薬~	,	1	\downarrow	↓ .	l l	1	1	1	1	\downarrow
エルプラット	L-OHP	100 mg/m²	点滴静注	2時間		Ţ																	ļ								
<ts-1投与量> 1.25㎡未満 1.25㎡以上~ 1.5㎡未満 1.5㎡以上</ts-1投与量>	80mg/c 100mg/c 120mg/c	day																													

Rp	補液(名称•用量)	薬剤名•用量	投与速度
1	グラニセトロン 3mg/100mL		30分
2	5% プドウ糖液 200mL	エルプラット 100 mg/m²	2時間

	特 記 事 項
休薬・減量・中止基準	休薬: DEB-NTC Grade2以上の末梢神経障害 減量: Grade2以上の血液・非血液毒性 中止: Grade3以上の血液毒性およびGrade3以上の過敏症および重 篤な下痢
主な副作用とその対策	・悪心嘔吐:5HT3拮抗薬+ステロイドの前投薬 ・過敏反応:H1、H2拮抗薬+ステロイドの前投薬 ・末梢神経障害:寒冷刺激の指導およびStop&Goの考慮
注意事項	・エルプラットの希釈は5%プドウ糖液に限る ・内服開始7日以内に禁忌薬の処方が無いことを確認 すること。
主要文献	・医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議公知申請への該当性に係る報告書 一般名 オキサリプラチン (適応外効能 治癒切除不能な進行・再発の胃癌) ・消化器がん化学療法レジメンブックp.63-66

登録NO. 27b

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	外科	部長:古池 真也		胃癌	SOX 100+オプジーボ
作成/確認	薬剤部	荒木寛也/ 澤柳直樹·米山英二	/	1クール 21日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2	3	4	5 6	6 7	8	9	10 1	1 12	13	14	15 1	6 17	18	19 20	0 21	22	23	24 2	5 26	3 27	28	29	30	31
ティーエスワン	S-1	80 mg/m2	経口投与	朝夕食後		1	1	1	1	↓ .	l ↓	1	1	1	$\downarrow \downarrow$	ļ	1	~	7日	間休	薬	~	1	1	1	l l	1	1	1	↓	\downarrow
オプジーボ	_	360mg/body	点滴静注	30分		1																	Ţ								
エルプラット	L-OHP	100 mg/m ²	点滴静注	2時間		Ţ																	Ţ								
〈ティーエスワン投与量〉 1.25㎡未満 1.25㎡以上~ 1.5㎡未満 1.5㎡以上	80mg/c 100mg/c 120mg/c	day																													

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度
1	生理食塩液 50mL	血管確保用	20分
2	生理食塩液 50mL	オプジーボ 360 mg/body	30分
3	生理食塩液 50mL	フラッシュ用	適宜
4	グラニセトロン 3mg/100mL	デキサート 3.3mg 2A	30分
5	5% ブドウ糖液 200mL	エルフ [°] ラット 100 mg/m2	2時間

	特記事項
休薬·減量· 中止基準	休薬:DEB-NTC Grade2以上の末梢神経障害 減量:Grade2以上の血液・非血液毒性中止:Grade3以上の血液毒性およびGrade3以上の過敏症、間質性肺炎(G1)、大腸炎・下痢(G2)、肝機能障害(G2)、神経障害(G2)、腎障害(G2)、重度の皮膚障害(G3)、重症筋無力症・心筋炎・筋炎・横紋筋融解症、1型糖尿病、免疫性血小板減少性紫斑病、副腎障害、脳炎、静脈血栓塞栓症、Infusion reaction、心臓障害(異常が認められた場合)。(詳細は添付文書を参照してください)
主な副作用とその対策	・悪心嘔吐:5HT3拮抗薬+ステロイトの前投薬・過敏反応:H1、H2拮抗薬+ステロイトの前投薬・末梢神経障害:寒冷刺激の指導およびStop & Goの考慮・過度の免疫反応による副作用:他の要因を除外し、必要に応じて専門医と連携するなどし各種副作用の対処法を参考に、本剤の中止、副腎皮質ステロイドの投与、ホルモン補充療法等必要な処置を行う
注意事項	・エルプラット: 5%7 ドウ糖液で希釈 ・内服開始7日以内に禁忌薬処方が無いことを確認・オプジーボはDEHPフリーのフィルター付きラインで点滴・オプジーボ最終投与日から1ヶ月以上経過してから重篤な副作用が発現する例があるため、投与終了後も経過観察を十分に行うこと。
主要文献	・オプジーボ胃癌の適正使用ガイド ・ATTRACTION−4 trial (PMID:30566590) ・CheckMate 649 trial (PMID:34102137)

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	内科	部長:吉田 昌弘		胃癌	XELOX
作成/確認	薬剤部	藤井友和╱西川隆一・辻博幸	/	1クール 21日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1 2	2 3	3 4	5	6 7	8	9	10 1	1 12	13	14 1	15 16	17 1	8 19	20 21	22	23	24 2	5 26	27	28 2	29 3	0 31
ゼローダ錠 300mg		1000 mg/㎡/回	経口投与	朝夕食後		↓ .	1 1	l ↓	1	1 1	1	\downarrow	$\downarrow \downarrow \downarrow$	1	1	1	~ 7	7日間	休薬	~	1	1	1		1	1	1 1	.
エルプラット	L-OHP	130 mg/m²	点滴静注	2時間		Ţ															ļ							
〈ゼローダ投与量: C法〉1.36㎡未満1.36㎡以上~ 1.66㎡未満1.66㎡以上~ 1.96㎡未満1.96㎡以上	1回量 1回量	1200mg 1500mg 1800mg 2100mg																										

Rı	補液(名称•用量)	薬剤名·用量	投与速度
1	グラニセトロン 3mg/100mL	デキサート 3.3mg 2A	30分
2	5% ブドウ糖液 200mL		2時間

	特 記 事 項
休薬・減量・中止基準	休薬: DEB-NTC Grade2以上の末梢神経障害 減量: Grade2以上の血液・非血液毒性 中止: Grade3以上の血液毒性およびGrade3以上の過敏症および重 篤な下痢
主な副作用とその対策	・悪心嘔吐:5HT3拮抗薬+ステロ小の前投薬 ・過敏反応:H1、H2拮抗薬+ステロ小の前投薬 ・末梢神経障害:寒冷刺激の指導およびStop&Goの考慮 ・手足症候群:セローダの減量、休薬、対症療法
注意事項	・エルプラットの希釈は5%プドウ糖液に限る ・内服開始7日以内に禁忌薬の処方が無いことを確認すること。
主要文献	・医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議公知申請への該当性に係る報告書 一般名 オキサリプラチン (適応外効能 治癒切除不能な進行・再発の胃癌) ・エルプラット添付文書

登録NO. 31b

登録年月日 2021/12/24

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	外科	部長:古池 真也		胃癌	XELOX+オプジーボ
作成/確認	薬剤部	荒木寛也/ 澤柳直樹·米山英二	/	1クール 21日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2	3	4 !	5 6	7	8	9 1	0 1	1 12	13	14	15 1	3 17	18	19 20	21	22	23 2	4 25	26	27	28 29	30	31
ゼローダ	_	1000 mg/㎡/回	経口投与	朝夕食後		1	\downarrow	1	↓ .	l l	. ↓	\downarrow	\downarrow	$\downarrow \downarrow \downarrow$.	1	1	~	7日	間休	薬	۲	1	↓ .	l l	1	\downarrow	$\downarrow \mid \downarrow$	\downarrow	↓
オプジーボ	_	360mg/body	点滴静注	30分		\downarrow																	Ţ							
エルプラット	L-OHP	130 mg/m²	点滴静注	2時間		Ţ																	Ţ)
 	1回量	1200mg																												
1.36㎡以上~ 1.66㎡未満 1.66㎡以上~ 1.96㎡未満 1.96㎡以上	1回量 1回量																													
																														Ш

Rp	補液(名称•用量)	薬剤名·用量	投与速度
1	生理食塩液 50mL	血管確保用	20分
2	生理食塩液 50mL	オプジーボ 360 mg/body	30分
3	生理食塩液 50mL	フラッシュ用	適宜
4	グラニセトロン 3mg/100mL	デキサート 3.3mg 2A	30分
5	5% ブドウ糖液 200mL	エルプラット 130 mg/m²	2時間

		特	記	事	項	
休薬·減量· 中止基準	能障害(G2)、神経障害(G	毒性およ 2)、腎障等 を性血小	びGrade 害(G2)、重 板減少性	3以上の 重度の皮 紫斑病、	過敏症、同障害(G 副腎障害	ade2以上の血液・非血液毒性 間質性肺炎(G1)、大腸炎・下痢(G2)、肝機 :3)、重症筋無力症・心筋炎・筋炎・横紋筋 肾、脳炎、静脈血栓塞栓症、Infusion 文書を参照してください)
主な副作用とその対策	・末梢神経障害:寒冷・手足症候群:ゼローダ(・過度の免疫反応によ 他の要因を除外し、必	刺激の の減量、 る副作 要に応	指導おる 休薬、 用 じて専門	kびStor 対症療 ^対 医と連	&Goの 去 携するな	応:H1、H2拮抗薬+ステロイ・の前投薬 考慮 などし各種副作用の対処法を参考 ン補充療法等必要な処置を行う
注意事項	・オプジーボはDEHPフリー	のフィルター 殳与日か	付きライ: ら1ヶ月」	ンで点滴		日以内に禁忌薬の処方が無いことを確認 重篤な副作用が発現する例があるため、
主要文献	・オプジーボ胃 ・ATTRACTION ・CheckMate 6	√-4 tı	rial (I	PMID	: 3056	66590)

登録NO. 331b

登録年月日 2022/2/2

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	外科	部長:古池真也		胃癌	mFOLFOX6+オプジーボ
作成/確認	薬剤部	澤柳直樹╱ 荒木寛也・米山英二	/	1クール 14 日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2	3 4	5	6	7	8	9 1	10 1	1 12	13	14	15	16 1	7 18	3 19	20	21	22	23	24	25	26	27	28 2	29 3	0 31
オプジーボ	-	240mg/body	点滴静注	30分		1												1														
アイソボリン	l-LV	200 mg/m ²	点滴静注	2時間		↓												Ţ													1	
エルプラット	L-OHP	85 mg/m²	点滴静注	2時間		Ţ												Ţ								•••••					1	
フルオロウラシル	5-FU	400 mg/m ²	急速静注	5分		Ţ												Ţ								••••					1	
フルオロウラシル	5-FU	2400 mg/m ²	持続静注	46時間		Ţ	,											ļ													Ţ	
			•••••																													

Rp	補液(名称•用量)	薬剤名•用量	投与速度
1	生理食塩液 50mL	血管確保用	20分
2	生理食塩液 50mL	オプジーボ 240 mg/body	30分
3	生理食塩液 50mL	フラッシュ用	適宜
1	グラニセトロン 3mg/100mL	デキサート 3.3mg 2A	30分
3		アイソホ゛リン 200mg/m² ヿ	2時間
4	5% ブドウ糖液 200mL	エルプラット 85mg/m² 」 同時投与	2時間
4	生理食塩液 50mL	5-FU 400mg/m ²	同時投与終了後に 全開で
6	5% ブドウ糖液 適量	5-FU 2400mg/m ²	- 携帯型持続ポンプで 46時間かけて
	携帯型持続ポンプの5%ブドウ糖	は5-FUとの合計で96mLとする	
ļ	※入院の場合		
	持続5-FU:2400mg/m²/生食	1000mLx1回(46時間かけて)	

<u> </u>	
	11 11 2
休薬·減量· 中止基準	休薬: DEB-NTC Grade2以上の末梢神経障害 減量: Grade2以上の血液・非血液毒性 中止: Grade3以上の血液毒性およびGrade3以上の過敏症、間質性肺炎(G1)、大腸炎・下痢(G2)、肝 機能障害(G2)、神経障害(G2)、腎障害(G2)、重度の皮膚障害(G3)、重症筋無力症・心筋炎・筋炎・横紋 筋融解症、1型糖尿病、免疫性血小板減少性紫斑病、副腎障害、脳炎、静脈血栓塞栓症、Infusion reaction、心臓障害(異常が認められた場合)。(詳細は添付文書を参照してください)
主な副作用とその対策	・悪心嘔吐:5HT3拮抗薬+ステロイドの前投薬・過敏反応:H1、H2拮抗薬+ステロイドの前投薬・末梢神経障害:寒冷刺激の指導およびStop & Goの考慮・過度の免疫反応による副作用他の要因を除外し、必要に応じて専門医と連携するなどし各種副作用の対処法を参考に、本剤の中止、副腎皮質ステロイドの投与、ホルモン補充療法等必要な処置を行う
注意事項	・エルプラットの希釈は5%プドウ糖液に限る ・オブジーボはDEHPフリーのフィルター付きラインで点滴 ・本剤投与終了後、最終投与日から1ヶ月以上経過してから重篤な副作用が発現する例があるため、 投与終了後も経過観察を十分に行うこと。 ・2020.4携帯型持続ポンプ変更(パウスターから=プロ)のため、希釈液と合計容量変更
主要文献	・オプジーボ胃癌の適正使用ガイド ・ATTRACTION−4 trial (PMID:30566590) ・CheckMate 649 trial (PMID:34102137)

登録NO. 35b

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	内科	部長:吉田 昌弘		切除不能胃癌	w-PTX (3投1休)
作成/確認	薬剤部	藤井友和/西川隆一・辻博幸	/	1 クール 2 8 日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1 2	3	4	5 6	7 8	9	10 1	1 12	13	14 15	5 16	17 1	8 19	20 2	21 22	2 23	24 25	26	27 28	8 29	30 31
パ クリタキセル	PTX	80 mg/m^2	点滴静注	1時間		1				1					ļ					休	í.				\downarrow	

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
1	_	レスタミン錠10mg 5錠	PTX開始30分前内服
2	生理食塩液 100mL	デキサート 3.3mg 3A	30分
3	生理食塩液 50mL	ファモチシ`ン 20mg 1A	30分
4		ハ゜クリタキセル 80 mg/m²	1時間
5			
6			
7			
8			
9			
10			
		<u>:</u>	

	特記	事	項	
休薬・減量・中止基準			上の血液・非血液 液毒性およびGra	友毒性 de3以上の過敏症
主な副作用とその対策	・悪心嘔吐 ・過敏反応		の前投薬 吉抗薬+ステロイド <i>ロ</i>)前投薬
注意事項	・PTXはDEF	IPフリーのフィ	ルター付きライン ⁻	で点滴
主要文献			al. Proc ASCO I. J Clin Onco	1999; 18:368a. J 1998; 16:

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	内科	部長:吉田 昌弘		切除不能胃癌	w-PTX (2投1休)
作成/確認	薬剤部	藤井友和/西川隆一·辻博幸	/	1 クール 2 8 日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1 2	3	4 5	6	7 8	9	10 1	1 12	13 1	4 15	16	17 1	8 19	20 2	21 22	2 23	24 2	5 26	27 2	28 29	30 31
パ クリタキセル	PTX	80 mg/m^2	点滴静注	1時間		\downarrow				ļ					休					\downarrow					1	

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
1	_	レスタミン錠10mg 5錠	PTX開始30分前内服
2	生理食塩液 100mL	デキサート 3.3mg 3A	30分
3	生理食塩液 50mL	ファモチシ゛ン 20mg 1A	30分
4	生理食塩液 250mL		1時間
5			
6			
7			
8			
9			
10			

	特	記	事	項
休薬・減量・中止基準				以上の血液・非血液毒性 血液毒性およびGrade3以上の過敏症
主な副作用とその対策				゛の前投薬 拮抗薬+ステロイドの前投薬
注意事項	• PTX	はDEHP	フリーのフィ	イルター付きラインで点滴
主要文献		dman Ā		al. Proc ASCO 1999; 18:368a. al. J Clin Oncol 1998; 16:

登録NO. 37b

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	内科	部長:吉田 昌弘		胃癌	3w-PTX
作成/確認	薬剤部	藤井友和/西川隆一・辻博幸	/	1 クール 2 1 日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1 2	3	4	5 6	7	8 9	10	11 12	13	14 1	5 16	17 1	8 19	20 2	1 22	23 2	4 25	26 27	28	29 30	31
ハ [°] クリタキセル	PTX	210 mg/m^2	点滴静注	3時間		\downarrow					休				付	ţ				1						

	Rp	補液(名称	・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
	1	_		レスタミン錠10mg 5錠	PTX開始30分前内服
	2	生理食塩液	100mL	デキサート 3.3mg 6A	30分
	3	生理食塩液	50mL	ファモチシ゛ン 20mg 1A	30分
	4	生理食塩液	250mL	ハ゜クリタキセル 210 mg/m²	3時間
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				

	特 記	事	項	
休薬・減量・中止基準			【上の血液・非血 I液毒性およびGra	液毒性 ade3以上の過敏症
主な副作用とその対策			の前投薬 拮抗薬+ステロイド(の前投薬
注意事項	・PTX(はDE	HPフリーのフィ	ハルター付きライン	で点滴
主要文献			n Oncol 12:113 Gastric Cance	3-1137, 2001 r 5:90-95, 2002

登録NO. 38b

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	外科	部長:古池真也		胃癌	3w-アブラキサン
作成/確認	薬剤部	藤井友和/西川隆一・辻博幸	/	1 クール 2 1 日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2	3 4	5	6	7 8	9	10	11 12	13	14 1	5 16	17	18 1	19 20	21	22	23	24 25	5 26	27	28 2	9 30	31
アブラキサン	_	260 mg/m²	点滴静注	30分		\downarrow																1							

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
1	生理食塩液 100mL	デキサート 3.3mg 2A	30分
2	生理食塩液 50mL	フラッシュ用	適宜
3	生理食塩液 100mL (100mg/20mLに調製)	アブラキサン 260 mg/m ²	30分
4	生理食塩液 50mL	フラッシュ用 (15分間はアブラキサンと同じ 速度で投与)	適宜
			·

	特 記 事 項
休薬·減量·中止基準	減量・休薬: Grade2以上の血液・非血液毒性中止: Grade3以上の血液毒性およびGrade3以上の過敏症
主な副作用とその対策	・悪心嘔吐:ステロイドの前投薬 ・筋肉痛、関節痛:NSAIDSの投与 ・抹消神経障害:ビタミン剤の投与、休薬減量 ・脱毛
注意事項	・アブラキサンは生食20mLにて溶解し100mg/20mLとする。残りの生食は破棄し過剰希釈は避ける。・非常に泡立ちやすいので慎重に調製すること。・アブラキサンは特定生物由来製剤である。・フィルターを通過しないので注意。・アブラキサン後のフラッシュ用生食は輸液ルートに残っている薬剤の急速投与を防止するため、15分間アブラキサンと同じ速度で投与(2020/7委員会承認)。
主要文献	アブラキサン適正使用ガイドアブラキサン添付文書

登録NO. 39b

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	外科	部長:古池真也		胃癌	2wCPT-11
作成/確認	薬剤部	藤井友和/西川隆一・辻博幸	/	1クール 14 日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2	3 4	5	6	7	8 9	10	11 1	2 13	3 14	15 1	6 17	18	19 2	0 21	22	23	24 2	25 20	6 27	28	29 3	0 31
イリノテカン	CPT-11	150 mg/m ²	点滴静注	90分		\downarrow											\downarrow											\downarrow	

Rp	補液(名称•用量)	薬剤名∙用量	投与速度
1	グラニセトロン 3mg/100mL	テ*キサート 3.3mg 2A	30分
2		イリノテカン 150mg/m ²	90分
			<u>,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,</u>

	特 記 事 項
休薬·減量·中止基準	減量: Grade2以上の血液・非血液毒性 中止: Grade3以上の血液毒性、Grade3以上の過敏症お よび重篤な下痢
主な副作用とその対策	・悪心嘔吐:5HT3拮抗薬+ステロイドの前投薬 ・急性下痢:抗コリン薬 ・遅発性下痢:ロペラミド + 半夏瀉心湯
注意事項	・遅発性の下痢に対し乳酸菌製剤の投与は避ける・UGT1A1遺伝子多型の検査結果をもとに投与量を設定すること(*6もしくは*28のホモ接合体および複合ヘテロ接合体の場合は50%に減量し、ヘテロ接合体の場合は70%に減量することを考慮)
主要文献	・イリノテカン塩酸塩添付文書 ・がん化学療法レジメン管理マニュアル p. 214-222

登録NO. 401b

登録年月日 2017/7/19

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	外科	部長:古池真也		胃癌	w-CPT-11 (3投1休)
作成/確認	薬剤部	藤井友和/西川隆一 •澤柳直樹•辻博幸	/	1クール 4週間(3投1休)	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29	9 30 31
イリノテカン	CPT-11	100 mg/m ²	点滴静注	90分		↓	
***************************************						31回投与を3~4回投与 し、 <u>少なくとも2週間休薬</u> する。これを <u>1クール</u> として投与を繰り	リ返す。
						<u> </u>	

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
1	グラニセトロン 3mg/100mL	テ [*] キサート3.3mg 2A	30分
2	生理食塩液 500mL	イリノテカン 100 mg/m²	90分
			•

	特訂	3 事	項	
休薬・減量・中止基準			血球数3,000 の過敏症お。)/mm㎡未満、血小板数 よび下痢
主な副作用とその対策	· 急性下:	痢:抗ゴリ		*の前投薬 半夏瀉心湯
注意事項	・イリノテ を設定する	カンはUGT1A1 こと(*6もし 場合は50%に派	遺伝子多型の しくは * 28のオ	投与は避けること 検査結果をもとに投与量 を接合体および複合ヘテコ接合体の場合は70%に減
主要文献	・イリノテカン。	点滴静注添	付文書 A法	;

	診療科	氏名	印		がん種		レジメン名称((略号)
確認	内科	部長:吉田 昌弘		切除	:不能胃癌		CPT-11 + CDDP	(入院用)
作成/確認	薬剤部	│藤井友和/西川隆一·辻博幸 │	/	1クール	2 8	日間	標準施行回数:	有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2	3 4	5	6	7	8 9	10	11 12	2 13	14	15 1	6 17	18	19	20 2	1 22	23	24 2	25 26	6 27	28	29 3	0 31
イリノテカン	CPT-11	70 mg/m^2	点滴静注	90分		\downarrow											1											1	
シスプ゜ラチン	CDDP	80 mg/m^2	点滴静注	2時間		Ţ																						↓ l	

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
<1E	目目>		
1	ソルデム1輸液 1500m	nL	8時間(メイン)
2	グラニセトロン 3mg/100mL	7□カリス 1V + デキサート 3.3mg 3A	30分(側管)
3	生理食塩液 50mL	フラッシュ + プレメディ時間調整用	30分(側管)
4	生理食塩液 250mL	イリノテカン 70mg/m ²	90分(側管)
5	生理食塩液 250mL	シスプ [°] ラチン 80mg/m ²	2時間(側管)
6	ソルデム3A 1000mL		3時間(側管)
<15	5日目>		
6	グラニセトロン 3mg/100mL	7ロカリス 1V + デキサート 3.3mg 3A	30分
7	生理食塩液 250mL	イリノテカン 70mg/m ²	90分
8			
9			
10			

	特 記 事 項	
休薬・減量・中止基準	減量・休薬:Grade2以上の血液・非血液毒性 中止:Grade3以上の血液毒性およびGrade3以」	上の過敏症
主な副作用とその対策	 ・悪心嘔吐:5HT3拮抗薬+ステロイドの前投薬・腎障害:輸液(2,000mL~3,000mL) ・急性下痢:抗コリン薬 ・遅発性下痢:ロペラミド+半夏瀉心湯 	
注意事項	・遅発性の下痢に対し乳酸菌製剤の投与は避ける ・イリノテカンはUGT1A1遺伝子多型の検査結果を 量を設定すること(* 6もしくは * 28のホモ接合体お ヘテロ接合体の場合は50%に減量し、ヘテロ接合体 70%に減量することを考慮)	・ もとに投与 らよび複合
主要文献	•Boku N, et al. J Clin Oncol 1999; 1 23.	7: 319–

登録NO. 40b

登録NO. 41b

	診療科	氏名	印		がん種		レジメン名称	(略号)
確認	内科	部長:吉田 昌弘		切除	不能胃癌		CPT-11 + CDDP	(外来用)
作成/確認	薬剤部	藤井友和/西川隆一・辻博幸	/	1クール	2 8	日間	標準施行回数:	有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2 3	3 4	5	6	7 8	9	10	11 12	13	14	15 1	6 17	18	19	20 2	1 22	23	24 2	25 2	6 27	28	29	30 31
イリノテカン	CPT-11	70 mg/m^2	点滴静注	90分		\downarrow											1											↓	
シスフ [°] ラチン	CDDP	80 mg/m^2	点滴静注	2時間		\downarrow																						↓	

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
<15	3目>		
1	ソルデム3A 1500mL		6時間(メイン)
2	ク゚ラニセトロン 3mg/100mL	7ロカリス 1V + デキサート 3.3mg 3A	30分(側管)
3	生理食塩液 50mL	フラッシュ用	適宜(側管)
4	生理食塩液 250mL	イリノテカン 70mg/m ²	90分(側管)
5	生理食塩液 250mL	シスプ [°] ラチン 80mg/m ²	2時間(側管)
<15	5日目>		
6	グラニセトロン 3mg/100mL	アロカリス 1V + デキサート 3.3mg 3A	30分
7	生理食塩液 250mL	イリノテカン 70mg/m ²	90分
8			
10			

	特	記	事	項		
休薬・減量・中止基準					夜・非血液 およびGrade	毒性 e3以上の過敏症
主な副作用とその対策	・腎障? ・急性	害:輸泡 下痢:打	友 (2, C 亢コリ:	00mL~3 ン薬	ト [*] の前投薬 3,000mL) ・夏瀉心湯	
注意事項	・イリノラ 量を設定	ーカンはに とするこ を合体の	JGT1A と(* 6 場合は	1遺伝子多 もしくは * :50%に減っ	28のホモ接行	避ける 吉果をもとに投与 合体および複合 接合体の場合は
主要文献	• Boku 23.	N, et	al.	J Clin	Oncol 199	9; 17: 319-

登録NO. 42b

	診療科	氏名	印		がん種		レジメン名称(略号)
確認	内科	部長:吉田 昌弘		切除	不能胃癌		CPT-11 + 少量CDDP
作成/確認	薬剤部	藤井友和/西川隆一・辻博幸	/	1クール	2 8	日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2	3 4	4 5	5 6	7	8	9	10	11 1	2 13	3 14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27 2	28 2	29 3	30 3
イリノテカン CI	PT-11	60 mg/m^2	点滴静注	90分		1						1						↓														\downarrow	
シスプ [°] ラチン CI	DDP	6 mg/m ²	点滴静注	90分		Ţ						Ţ						ļ														Ţ	
										初回]]]]	完て	ごは	3找	上 2 <u>1</u> 作	木と	<u>ا</u> زل:	4 j	固を	11/	<u></u> ל	-ル	وع	ナる) ₀								
										その	後夕	仆∓ · ···	そで	は、 一	· 隔:	週刊	安与	·を:	繰り	ソ返 T	. す 	。 											

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
1	生理食塩液 100mL	アロキシ 1V + デキサート 3.3mg 2A	30分
2	生埋食塩液 500mL 	イリノテカン 60mg/m²) シスフ [°] ラチン 6mg/m² 〉 混合	307]
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

	特 記 事 項
休薬・減量・中止基準	減量・休薬:Grade2以上の血液・非血液毒性 中止:Grade3以上の血液毒性およびGrade3以上の過敏症
主な副作用とその対策	・悪心嘔吐:5HT3拮抗薬+ステロイドの前投薬 ・急性下痢:抗コリン薬 ・遅発性下痢:ロペラミド+半夏瀉心湯
注意事項	・遅発性の下痢に対し乳酸菌製剤の投与は避ける・イリノテカンはUGT1A1遺伝子多型の検査結果をもとに投与量を設定すること(*6もしくは*28のホモ接合体および複合ヘテロ接合体の場合は50%に減量し、ヘテロ接合体の場合は70%に減量することを考慮)
主要文献	・Shimada S, et al:Second-line chemotherapy with combined irinotecsan and low-dose cisplatin for patients with metastatic gastric carcinoma resistant to 5-fluorouracil. Oncol Rep 10:687-691, 2003 ・消化器がん化学療法即戦マニュアル,6.イリノテカン+シスプラチン療法, p54-55, 金芳堂

登録NO. 45b

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	内科	部長:吉田 昌弘		胃癌	HER+セ゛ロータ゛+CDDP
作成/確認	薬剤部	藤井友和/西川隆一・辻博幸	/	1クール 21日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2 3	3 4	5	6	7 8	8 9	10) 11	1 12	13	14	15 16	17	18 1	9 20	21	22	23 2	24 2	5 26	27	28 2	9 30	0 31
ゼローダ錠 300mg		2000 mg/㎡/日	経口投与	朝夕食後		1	↓	l ↓	1	↓	↓ .	1	.	ļ	ļ	1	1	~	7日	間休	來~	-	↓	\downarrow	1 1	↓ ↓	\downarrow	↓ .	1 1	,
ハーセプチン(初回)	HER	8 mg/kg	点滴静注	90分		Ţ	(初[回の	み)					与:	量:	C法	>		<u> </u>			<u> </u>								
ハーセプチン(2回目以降)	HER	6 mg/kg	点滴静注	90~30分						1	.36r .36r	-		~ 1	.66	mi未	₹満	_	量		00mg 00mg		Ţ	(2	回目	以	降)			
シスプ゜ラチン	CDDP	80 mg/m ²	点滴静注	2時間		\downarrow				1		'nIJ	上		1.96			1 🖪	量回量	180	00mg 00mg	5	Ţ							

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
<前	日>		
1	ソルデム1輸液 2000m	L	24時間(メイン)
< 1	日目>		
1	生理食塩液 250mL	ハーセフ゜チン 8 mg/kg(初回)	90分(側管)
	工程及塩液 ZUUML	ハーセプチン 6 mg/kg(2回目以降)	90~30分(側管)
2	グラニセトロン 3mg/100mL	アロカリス 1V + デキサート 3.3mg 3A	30分(側管)
3	生理食塩液 50mL	フラッシュ用	適宜(側管)
4	生理食塩液 250mL	シスプ [°] ラチン 80mg/m ²	2時間(側管)
5	ソルデム3A 1000mL		3時間(側管)
6	ソルラクト 1000mL		12時間(側管)

	特	記	事	項	
休薬・減量・中止基準	中止: 明	月らかな	心不全	症状が	夜・非血液毒性 現れた場合 およびGrade3以上の過敏症
主な副作用とその対策	めまい、 ・悪心啊 ・腎障割	無力症 ^{區吐:5H} 号:輸液)= 1 IT3拮抗 i(2, 00	刃回の 4 薬+ステロィ 0mL~3	嘔気、嘔吐、頭痛、咳、 · 0 %に出現:対症療法 (ドの前投薬 3, 000mL) 、休薬、対症療法
注意事項	増強	するのだ	ため禁	忌	ン系との併用で心毒性を ちやすいので要注意
主要文献	Bang Yo ハーセフ゜チン				687–697, 2010

登録NO. 46b

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	内科	部長:吉田 昌弘		胃癌	HER+ゼローダ+CDDP (外来用)
作成/確認	薬剤部	藤井友和/西川隆一・辻博幸	/	1 クール 2 1 日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2	3 4	5	6	7	8 9	10) 11	12	13	14	15 1	6 17	7 18	19	20	21	22	23	24 2	5 2	6 27	28	29	30 3	31
ゼローダ錠 300mg		2000 mg/㎡/日	経口投与	朝夕食後		1	↓ .	l l	.	ļ	1	1 1	.	1	↓	↓	↓	~	· 7 E	日間	休達	薬~	,	1	1	↓ .	Į Į	l	1	↓	1	\downarrow
ハーセプチン(初回)	HER	8 mg/kg	点滴静注	90分		Ţ	(初	回の)み)	1 `	ゼロ・			- F - テ - 量	: C	法>			<u> </u>	<u> </u>												
ハーセプチン(2回目以降)	HER	6 mg/kg	点滴静注	90~30分							36 m 36 m			1.6	36 m	未	満	-	可量 可量			ig		Ţ	(2	回目	引以	降)				
シスプ [°] ラ チ ン	CDDP	80 mg/m ²	点滴静注	2時間		↓				1	66 m 96 m	以」	L~					1 🖪		18	00m	ng ng		ļ								

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
1	ソルデム3A 1500mL		6時間(メイン)
2	生理食塩液 250mL	ハーセプチン 8 mg/kg(初回)	90分(側管)
	王垤良塩液 250ML	ハーセプチン 6 mg/kg(2回目以降)	90~30分(側管)
3	グラニセトロン 3mg/100mL	ፖロカリス 1V + デキサ−ト 3.3mg 3A	30分(側管)
4	生理食塩液 50mL	フラッシュ用	適宜(側管)
5		シスプ [°] ラチン 80mg/m ²	2時間(側管)

	特 記 事 項
休薬・減量・中止基準	減量・休薬:Grade2以上の血液・非血液毒性 中止:明らかな心不全症状が現れた場合 Grade3以上の血液毒性およびGrade3以上の過敏症
主な副作用とその対策	 infusion reaction (発熱、嘔気、嘔吐、頭痛、咳、めまい、無力症) = 初回の40%に出現:対症療法・悪心嘔吐:5HT3拮抗薬+ステロイドの前投薬・腎障害:輸液(2,000mL~3,000mL)・手足症候群:ゼローダの減量、休薬、対症療法
注意事項	・HERはアンスラサイクリン系との併用で心毒性を 増強するのため禁忌 ・HERは溶解/希釈時に泡立ちやすいので要注意
主要文献	Bang YJ, et al:Lancet376:687-697, 2010 ハーセプ チン適正使用ガイド

登録NO. 47b

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	内科	部長:吉田 昌弘		胃癌	HER+S1+CDDP (入院用)
作成/確認	薬剤部	藤井友和/西川隆一・辻博幸	/	1クール 21日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2 3	3 4	5	6	7 8	9	10 1	1 12	13	14	15 16 17 18 19	20 21	22	23	24 2	5 26	3 27	28 2	29 30	31
ティーエスワン	S-1	80 mg/m^2	経口投与	朝夕食後		1	1 1	.	1	↓ .	l l	\downarrow	1	1 1	1	1	~7日間休葬	₹~	1	\downarrow	↓ .	l l	1	1	$\downarrow \mid \downarrow$	1
ハーセプチン(初回)	HER	8 mg/kg	点滴静注	90分		Ţ	(初回	回の	み)		<ts< td=""><td>I'''I -1投</td><td>:与量</td><td><u></u>}</td><td>T</td><td>T</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></ts<>	I'''I -1投	:与量	<u></u> }	T	T										
ハーセプチン(2回目以降)	HER	6 mg/kg	点滴静注	90~30分								m m w		- 1.5	m未	:満	80mg/day 100mg/day		1	(2	回目]以				
シスプ゜ラチン	CDDP	60 mg/m^2	点滴静注	2時間		Ţ						n'以_					120mg/day		\downarrow							

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
<前	日>		
1	ソルデム1輸液 2000m	L	24時間(メイン)
< 1	日目>		
1		ハーセプチン 8 mg/kg(初回)	90分(側管)
'	主连良塩液 250ML	ハーセプチン 6 mg/kg(2回目以降)	90~30分(側管)
2	グラニセトロン 3mg/100mL	ፖロカリス 1V + デキサ−ト 3.3mg 3A	30分(側管)
3	生理食塩液 50mL	フラッシュ用	適宜(側管)
4	生理食塩液 250mL	シスプ [°] ラチン 60mg/m ²	2時間(側管)
5	ソルデム3A 1000mL		3時間(側管)
6	ソルラクト 1000mL		12時間(側管)
	·	<u> </u>	

	特	記	事	項
休薬・減量・中止基準	中止:明	らかな	心不全	上の血液・非血液毒性 症状が現れた場合 液毒性およびGrade3以上の過敏症
主な副作用とその対策	まい、無・悪心嘔	力症) 吐:5H	= 初回 T3拮抗	(発熱、嘔気、嘔吐、頭痛、咳、め 回の40%に出現:対症療法 薬+ステロイドの前投薬 0mL~3,000mL)
注意事項	増強す ・HERは ・TS-17	けるの7 溶解/ 内服開	ため禁 希釈時 始7日	イクリン系との併用で心毒性を 忌 に泡立ちやすいので要注意 以内に禁忌薬の処方が すること。
主要文献	ハーセフ゜チン	適正使	見用がイ	' F *

登録NO. 48b

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	内科	部長:吉田 昌弘		胃癌	HER+S1+CDDP (外来用)
作成/確認	薬剤部	藤井友和/西川隆一・辻博幸	/	1クール 21日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2	3 4	5	6	7	8 9	10	11	12	13	14	15 1	6 17	18	19 2	0 21	22	23	24 2	25 2	6 27	28	29	30 31
ティーエスワン	S-1	80 mg/m^2	経口投与	朝夕食後		1	↓ .	1 1	ļ	1	1	1 1	.	↓	ļ	1	1	~	7 F	目間(木薬	~	1	1	1	1 1	.	1	1	1 1
ハーセプチン(初回)	HER	8 mg/kg	点滴静注	90分		Ţ	(初	回の	み)	-	<t< td=""><td>S-1</td><td>】 没与</td><td>上 ·量〉</td><td><u> </u></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></t<>	S-1	】 没与	上 ·量〉	<u> </u>															
ハーセプチン(2回目以降)	HER	6 mg/kg	点滴静注	90~30分							112	5m² 5m²			1.5n	nỉ未	満		Omg/ Omg/		•		ļ	(2	回]以	降)			
シスフ [°] ラ チ ン	CDDP	60 mg/m ²	点滴静注	2時間		\downarrow						m比)mg/				\downarrow							

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
1	ソルデム3A 1500mL		6時間(メイン)
2	生理食塩液 250mL	ハーセフ°チン 8 mg/kg(初回)	90分(側管)
		ハーセプチン 6 mg/kg(2回目以降)	90~30分(側管)
3	グラニセトロン 3mg/100mL	7ロカリス 1V + デキサート 3.3mg 3A	30分(側管)
4	生理食塩液 50mL		適宜(側管)
5	生理食塩液 250mL	_	2時間(側管)
	***************************************		***************************************

	特 記 事 項
休薬・減量・中止基準	減量・休薬:Grade2以上の血液・非血液毒性 中止:明らかな心不全症状が現れた場合 Grade3以上の血液毒性およびGrade3以上の過敏症
主な副作用とその対策	 infusion reaction (発熱、嘔気、嘔吐、頭痛、咳、めまい、無力症) = 初回の40%に出現:対症療法 悪心嘔吐:5HT3拮抗薬+ステロイドの前投薬 腎障害:輸液(2,000mL~3,000mL)
注意事項	・HERはアンスラサイクリン系との併用で心毒性を 増強するのため禁忌 ・HERは溶解/希釈時に泡立ちやすいので要注意 ・TS-1内服開始7日以内に禁忌薬の処方が 無いことを 確認すること。
主要文献	ハーセプチン適正使用ガイド

登録NO. 49b

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	内科	部長:吉田 昌弘		胃癌	HER+S1
作成/確認	薬剤部	藤井友和╱西川隆一・辻博幸	/	1クール 21日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2	3 4	5	6	7 8	3 9	10	11 1	2 13	3 14	15 16	17	18 1	9 20 2	21 2	2 2	3 24	25	26 2	27 28	3 29	30	31
ティーエスワン	S-1	80 mg/m^2	経口投与	朝夕食後		1	1	\downarrow	ļ	↓	↓ .	l ↓	1	↓ .	l l	1	~	7日	間休	薬~	,	l I	↓	\downarrow	1	\downarrow	1	1	\downarrow
ハーセプチン(初回)	HER	8 mg/kg	点滴静注	90分		1	(初	回の	み)																				
ハーセプチン(2回目以降)	HER	6 mg/kg	点滴静注	90~30分																	,	l (2 回	目片	汄降)			
<ts-1投与量> 1.25㎡未満 1.25㎡以上〜 1.5㎡未 1.5㎡以上</ts-1投与量>	満 100	lmg/day lmg/day lmg/day																											

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等								
< 1	<1日目>										
1	生理食塩液 50mL	血管確保用	20分								
2		ハ−セプチン 8 mg/kg(初回)	90分(側管)								
		ハーセプチン 6 mg/kg(2回目以降)									
<u> </u>		<u> </u>									

	符 記 争 垻
休薬・減量・中止基準	減量・休薬:Grade2以上の血液・非血液毒性 中止:明らかな心不全症状が現れた場合 Grade3以上の血液毒性およびGrade3以上の過敏症
主な副作用とその対策	・infusion reaction (発熱、嘔気、嘔吐、頭痛、咳、めまい、無力症) = 初回の40%に出現:対症療法
注意事項	・TS-1内服開始7日以内に禁忌薬の処方が 無いことを 確認すること。
主要文献	・ハーセプチン適正使用ガイド

登録NO. 5201b

登録年月日 2016/3/16

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	内科	部長:吉田 昌弘		胃癌	HER+SOX 100
作成/確認	薬剤部	藤井友和/西川隆一・辻博幸	/	1 クール 21日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2	3 4	5	6	7	8	9 1	0 1	1 12	13	14	15	16 17	18	19	20 2	1 22	2 23	24	25	26	27 2	8 2	9 3	J 31
ティーエスワン	S-1	80 mg/m^2	経口投与	朝夕食後		1	↓ I	1 1	1	↓	↓	1	↓ .	1 1	l ↓	1	1	^	- 7 E	目間	休菜	₹~	1	↓	↓	1	1	↓ .	l l	1 1	↓
ハーセプチン(初回)	HER	8 mg/kg	点滴静注	90分		Ţ	(初)	回の	み)	- 1	<ts< td=""><td>-</td><td></td><td>_</td><td>· T</td><td>1</td><td>T1</td><td></td><td></td><td>1</td><td>ГТ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></ts<>	-		_	· T	1	T1			1	ГТ										
ハーセプチン(2回目以降)	HER	6 mg/kg	点滴静注	90~30分							1.25 1.25				1.5r	nỉ未	満		30mg 00mg				Ţ	(:	2 回	目以	汄降	<u>:</u>)			
エルプラット	L-OHP	100 mg/m²	点滴静注	2時間		\downarrow					1.5 n	n [†] 以	ㅗ					12	20mg	;∕day T	y I I		ļ								
																								Ţ							

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
1	生理食塩液 50mL	血管確保用	20分
2	生理食塩液 250mL	ハーセプチン 8 mg/kg(初回)	90分(側管)
		ハーセプチン 6 mg/kg(2回目以降)	90~30分(側管)
3	グラニセトロン 3mg/100mL	デキサート 3.3mg 2A	30分
4	5% ブドウ糖液 200mL	エルプラット 100 mg/m²	2時間
5	生理食塩液 50mL	フラッシュ用	適宜

	特 記 事 項
休薬・減量・中止基準	休薬: DEB-NTC Grade2以上の末梢神経障害 減量・休薬: Grade2以上の血液・非血液毒性 中止:明らかな心不全症状が現れた場合、Grade3以上の 血液毒性、過敏症および重篤な下痢
主な副作用とその対策	・infusion reaction (発熱、嘔気、嘔吐、頭痛、咳、めまい、無力症) = 初回の40%に出現:対症療法・悪心嘔吐:5HT3拮抗薬+ステロイドの前投薬・過敏反応:H1、H2拮抗薬+ステロイドの前投薬・末梢神経障害:寒冷刺激の指導およびStop&Goの考慮
注意事項	・エルプラットの希釈は5%プドウ糖液に限る ・TS-1内服開始7日以内に禁忌薬の処方が 無いことを確認すること。
主要文献	・治癒切除不能な進行・再発の胃癌 エルプラット点滴静注液の適性使用について ・消化器がん化学療法レジメンブックp. 63-66 ・ハーセプ・チン適正使用がイト・

登録NO. 521b

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	内科	部長:吉田 昌弘		胃癌	HER+XELOX
作成/確認	薬剤部	藤井友和╱西川隆一・辻博幸	/	1クール 21日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2 3	3 4	5	6	7 8	9	10 1	1 12	13	14 1	5 16	17 18	19 20	21	22	23	24 2	5 26	27	28 2	9 30	31
ゼローダ錠 300mg		2000 mg/㎡/日	経口投与	朝夕食後		1	1 1	.	↓	↓	$\downarrow \mid \downarrow$	1	↓ .	$\downarrow \downarrow$	↓	1	~ 7	日間	休薬~	~	\downarrow	\downarrow	1 1	l ↓	\downarrow	↓ .	↓ ↓	\downarrow
ハーセプチン(初回)	HER	8 mg/kg	点滴静注	90分		1	(初[回の	み)					量 : C	<u></u> 法>]								
ハーセプチン(2回目以降)	HER	6 mg/kg	点滴静注	90~30分								未満 以上		.66m	未	苘	1回量 1回量		00mg 00mg	11	1	(2	回目	以	降)			
エルプラット	L-OHP	130 mg/m²	点滴静注	2時間		ļ						以上 以上		.96m	未	茜	1回量 1回量	_	00mg 00mg	11	Ţ							

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
1	生理食塩液 50mL	血管確保用	20分
2	生理食塩液 250mL	ハーセフ°チン 8 mg/kg(初回)	90分(側管)
-		ハーセプチン 6 mg/kg(2回目以降)	
3	グラニセトロン 3mg/100mL	デキサート 3.3mg 2A	30分
4	5% ブドウ糖液 200mL	エルプ [°] ラット 130 mg/m ²	2時間
5	生理食塩液 50mL	フラッシュ用	適宜

	特 記 事 項
休薬・減量・中止基準	休薬:DEB-NTC Grade2以上の末梢神経障害 減量・休薬:Grade2以上の血液・非血液毒性 中止:明らかな心不全症状が現れた場合、Grade3以上の 血液毒性、過敏症および重篤な下痢
主な副作用とその対策	・infusion reaction (発熱、嘔気、嘔吐、頭痛、咳、めまい、無力症) = 初回の40%に出現:対症療法・悪心嘔吐:5HT3拮抗薬+ステロイドの前投薬・過敏反応:H1、H2拮抗薬+ステロイドの前投薬・末梢神経障害:寒冷刺激の指導およびStop&Goの考慮・手足症候群:ゼローダの減量、休薬、対症療法
注意事項	・エルプラットの希釈は5%プドウ糖液に限る ・内服開始7日以内に禁忌薬の処方が無いことを確 認すること。
主要文献	・治癒切除不能な進行・再発の胃癌 エルプラット点滴静注液の適性使用について・エルプラット添付文書・ハーセプチン適正使用ガイド

登録NO. 63b

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	内科	部長:吉田 昌弘		切除不能胃癌	3w-DTX
作成/確認	薬剤部	藤井友和/西川隆一・辻博幸	/	1 クール 2 1 日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2 3	4	5	6 7	8	9	10 1	1 12	13	14	15 1	6 17	7 18	19	20	21	22 2	3 24	25	26	27 2	28 2	9 30	31
ドセタキセル	DTX	60 mg/m^2	点滴静注	1時間		\downarrow					休					ľ	休						\downarrow							

															ļ															

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
1	生理食塩液 100mL	デキサート 3.3mg 2A	30分
2	生理食塩液 250mL	ドセタキセル 60 mg/m ²	1時間
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

	特 記 事 項
休薬・減量・中止基準	減量・休薬:Grade2以上の血液・非血液毒性 中止:Grade3以上の血液毒性およびGrade3以上の過敏症
主な副作用とその対策	・悪心嘔吐:ステロイドの前投薬・過敏症:必要に応じてPTXに準じて対応・浮腫(蓄積性):ステロイドの投与を考慮
注意事項	・2015/7/23~ドセタキセルはアルコールフリーに変更済 ・泡立ちやすいので調製注意
主要文献	 Taguchi T, et al. Jpn J Cancer Chemother 1998; 25: 1915-24. Mai M, et al. Jpn J Cancer Chemother 1999; 26: 487-96.

登録NO. 65b

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	内科	部長:吉田 昌弘		切除不能進行・再発胃癌	サイラムサ゛ + ハ゜クリタキセル
作成/確認	薬剤部	藤井友和/西川隆一・辻博幸	/	1 クール 2 8 日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2 :	3 4	5	6	7 8	9	10 1	11 12	2 13	14	15 1	6 17	18	19	20 21	22	23	24 2	5 26	27	28	29 30	31
サイラムサ゛		8 mg/kg	点滴静注	1時間		1					休						1					休						1	
		80 mg/m^2	点滴静注	1時間		Ţ			<u> </u>		ļ	Ī					Ţ		Ī			休			Ī			↓	

Rp	補液(名称	・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
<day< td=""><td>/ 1 , 15></td><td></td><td></td><td></td></day<>	/ 1 , 15>			
1	_		レスタミン錠10mg 5錠	サイラムザ開始30分前内服
2	生理食塩液	100mL	デキサート 3.3mg 3A	30分
3	生理食塩液	50mL	ファモチシ゛ン 20mg 1A	30分
4	生理食塩液	50mL	フラッシュ用	適宜
5	生理食塩液	250mL	サイラムサ゛ 8mg/kg	初回60分、以後30分ま で短縮可
6	生理食塩液	50mL	フラッシュ用	適宜
7	生理食塩液	250mL	ハ゜クリタキセル 80 mg/m²	1時間
8	生理食塩液	50mL	フラッシュ用	適宜
<day< td=""><td>/8></td><td></td><td></td><td></td></day<>	/8>			
1	_		レスタミン錠10mg 5錠	PTX開始30分前内服
2	生理食塩液	100mL	デキサート 3.3mg 3A	30分
3	生理食塩液	50mL	ファモチシ`ン 20mg 1A	30分
4	生理食塩液	250mL	ハ゜クリタキセル 80 mg/m²	1時間
5	生理食塩液	50mL	フラッシュ用	適宜

	特記事項
休薬・減量・中止基準	減量: Grade2以上の血液・非血液毒性 中止: 重度の出血、血栓塞栓症、コントロール不能の高血圧、高 度の蛋白尿、Grade3以上の血液毒性、非血液毒性 (詳細は添付文書を参照してください)
主な副作用とその対策	・悪心嘔吐:ステロイドの前投薬 ・過敏反応:H ₁ 、H ₂ 拮抗薬+ステロイドの前投薬 ※サイラムザ関連の重篤な副作用(消化管穿孔、 出血、血栓塞栓症、高血圧性脳症、高血圧性ク リーゼ)に関しては、サイラムザ適正使用ガイド 参照
注意事項	・サイラムザとPTXはDEHPフリーのフィルター付きラインで点滴・サイラムザはブドウ糖との混合により力価が低下するため、混合を避け、同じ点滴ラインを用いた同時投与も避けること。
主要文献	・Wilke, H. et al. Ramucirumab plus paclitaxel versus placebo plus paclitaxel in patients with previously treated advanced gastric or gastrooesophageal junction adenocarcinoma(RAINBOW):a doubleblind, randomised phase 3 trial.:The Lancet Oncol., 15(11), 1224-1235(2014)・サイラムザ適正使用ガイド

登録NO. 661b

登録年月日 2018/5/16

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	外科	部長:古池 真也		切除不能進行・再発胃癌	サイラムサ゛ + アフ゛ラキサン
作成/確認	薬剤部	澤柳 直樹·西川隆一 /藤井友和	/	1 クール 2 8 日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2 3	3 4	5	6	7 8	9	10 1	11 12	2 13	14	15 1	16 17	7 18	19	20 21	22	23	24 2	5 26	27	28 2	29 30	31
サイラムサ゛		8 mg/kg	点滴静注	1時間		1					休						\downarrow					休					`	1	
マラケニナル		100 mg/m^2	点滴静注	1時間		ļ					ļ						Ţ					休					,	Ţ	

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
<day< td=""><td>y 1 , 15></td><td></td><td></td></day<>	y 1 , 15>		
1	_	レスタミン錠10mg 5錠	サイラムザ開始30分前内服
2	生理食塩液 100mL	デキサート 3.3mg 2A	30分(本ルート)
3	生理食塩液 50mL	フラッシュ用	適宜(本ルート)
4	生理食塩液 250mL	サイラムザ 8mg/kg	初回60分、以後30分ま で短縮可
5	生理食塩液 50mL	フラッシュ用	適宜(側管)
6	生理食塩液 100mL (100mg/20mLに調製)	アブラキサン 100 mg/m²	30分(側管)
7	生理食塩液 50mL	フラッシュ用(15分間はアプラキサンと 同じ速度で投与)	適宜(側管)
<day< td=""><td>y8></td><td></td><td></td></day<>	y8>		
1	生理食塩液 100mL	デキサート 3.3mg 2A	30分
2	生理食塩液 50mL	フラッシュ用	適宜
3	生理食塩液 100mL (100mg/20mLに調製)	アブラキサン 100 mg/m ²	30分
4	生理食塩液 50mL	フラッシュ用(15分間はアブラキサンと 同じ速度で投与)	適宜

	特 記 事 項
休薬・減量・中止基準	減量: Grade2以上の血液・非血液毒性 中止: 重度の出血、血栓塞栓症、コントロール不能の高血圧、高 度の蛋白尿、Grade3以上の血液毒性、非血液毒性 (詳細は添付文書を参照してください)
主な副作用とその対策	・悪心嘔吐:ステロイドの前投薬 ・筋肉痛、関節痛:NSAIDSの投与 ・末梢神経障害:ビタミン剤の投与、休薬減量 ・脱毛 ※サイラムザ関連の重篤な副作用(消化管穿孔、出血、血栓塞栓 症、高血圧性脳症、高血圧性クリーゼ)に関しては、サイラムザ 適正使用ガイド参照
注意事項	・サイラムザはDEHPリーのフィルター付きラインで点滴。 ・サイラムザはブドウ糖との混合により力価が低下するため、混合を避け、同じ点滴ラインを用いた同時投与も避けること。 ・アブラキサンは生食20mLにて溶解し100mLL/20mLとする。残りの生食は破棄し過剰希釈は避ける。 ・非常に泡立ちやすいので慎重に調製すること。 ・アブラキサンは特定生物由来製剤である。 ・アブラキサンはフィルターを通過しないので注意・このレジメンではフィルター使用(サイラムザ: 本ルート)、フィルター不可(アプラキサン:側管ルート)が混在するため変注意。 ・は割、15のサイラムザ後のフラッシュ生食で側管ルートのプライミングを行う。 ・アブラキサン後のフラッシュ用生食は輸液ルートに残っている薬剤の急速投与を防止するため、15分間アブラキサンと同じ速度で投与(2020/7委員会承認)。
主要文献	・サイラムザ適正使用ガイド ・Hideaki.B et al. Eur J Cancer 91(2018):86-91

登録NO. 66b

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	外科	部長:古池 真也		切除不能進行・再発胃癌	サイラムサ゛
作成/確認	薬剤部	藤井友和/西川隆一・辻博幸	/	1 クール 2 8 日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2	3 4	4 5	6	7 8	3 9	10	11 1	2 13	14	15 10	6 17	18 1	9 20	21	22 2	23 2	4 25	26 2	27 28	8 29	30	31
サイラムサ゛	_	8 mg/kg	点滴静注	1時間		1					1	木					1					休					\downarrow		

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
1	_	レスタミン錠10mg 5錠	サイラムザ開始30分前内服
2	生理食塩液 50mL	血管確保用	30分
3	生理食塩液 250mL	サイラムサ゛ 8mg/kg	初回60分、以後30分ま で短縮可
4		フラッシュ用	適宜

	特 記	事	項
休薬・減量・中止基準		血、血栓署 Grade3以上	塞栓症、コントロール不能の高血圧、 上の血液毒性、非血液毒性
主な副作用とその対策	※サイラムサ 血、血栓塞格	f関連の ê症、高ロ	ロイトの前投薬 重篤な副作用(消化管穿孔、出 血圧性脳症、高血圧性クリー イラムザ適正使用ガイド参照
注意事項	・サイラムサ	fはブドヮ R合を避り	フリーのフィルター付きラインで点滴 ウ糖との混合によりカ価が低T け、同じ点滴ラインを用いた同。
主要文献	placebo plus p treated advanc adenocarcinoma	aclitaxel ed gastri (RAINBOW) cet Oncol	icirumab plus paclitaxel versus lin patients with previously ic or gastrooesophageal junction ∴a doubleblind, randomised phase l., 15(11), 1224-1235(2014) √ ド

登録NO. 67b

登録年月日 2017/3/15

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	外科	部長:古池真也		胃癌	2wCPT-11+サイラムサ゛(適応外)
作成/確認	薬剤部	藤井友和/西川隆一・辻博幸	/	1クール 14 日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2 3	3 4	. 5	6	7	8	9 10	0 11	12	13 1	4 1	5 16	17	18	19 2	0 2	1 22	23	24	25 2	26 2	7 28	29	30	31
サイラムサ゛	_	8 mg/kg	点滴静注	1時間		\downarrow						休					1	,					休						ļ		
イリノテカン	CPT-11	•	点滴静注	90分		↓						休					1	,					休						1		
																												Ī			

Rp	補液(名称•用量)	薬剤名∙用量	投与速度
1	_	レスタミン錠10mg 5錠	サイラムサ゛開始30分前内服
2	グラニセトロン 3mg/100mL	テ*キサート 3.3mg 2A	30分
3	生理食塩液 50mL	フラッシュ用	適宜
4	生理食塩液 250mL	サイラムサ゛8mg/kg	初回60分、以後30分ま で短縮可
5	生理食塩液 50mL	フラッシュ用	適宜
6	生理食塩液 500mL	イリノテカン 150mg/m²	90分

	特 記 事 項
休薬・減量・中止基準	減量: Grade2以上の血液・非血液毒性中止: 重度の出血、血栓塞栓症、コントロール不能の高血圧、高度の蛋白尿、Grade3以上の血液毒性、非血液毒性(詳細は添付文書を参照してください)
主な副作用とその対策	・悪心嘔吐:5HT3拮抗薬+ステロイドの前投薬・急性下痢:抗コリン薬・遅発性下痢:ロペラミト゚+ 半夏瀉心湯・過敏反応:H1、ステロイドの前投薬 ※サイラムザ関連の重篤な副作用(消化管穿孔、出血、血栓塞栓症、高血圧性脳症、高血圧性クリーゼ)に関しては、サイラムザ適正使用ガイド参照
注意事項	・遅発性の下痢に対し乳酸菌製剤の投与は避ける ・UGT1A1遺伝子多型の検査結果をもとに投与量を設定すること(*6もしくは*28のホモ接合体および複合ヘテロ接合体の場合は50%に減量し、ヘテロ接合体の場合は70%に減量することを考慮) ・サイラムザはDEHPフリーのフィルター付きラインで点滴 ・サイラムザはブドウ糖との混合により力価が低下するため、混合を避け、同じ点滴ラインを用いた同時投与も避けること。
主要文献	・イリノテカン塩酸塩添付文書 ・がん化学療法レジメン管理マニュアル p. 214-222 ・Wilke, H. et al. Ramucirumab plus paclitaxel versus placebo plus paclitaxel in patients with previously treated advanced gastric or gastrooesophageal junction adenocarcinoma(RAINBOW):a doubleblind, randomised phase 3 trial:The Lancet Oncol., 15(11), 1224-1235(2014) ・サイラムザ適正使用ガイド

登録NO. 76b

登録年月日 2018/9/19

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	外科	部長:古池 真也		切除不能進行・再発胃癌	2w-オプジーボ
作成/確認	薬剤部	澤柳直樹/西川隆一・藤井友和	/	1 クール 1 4 日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2 3	3 4	5	6	7 8	9	10	11 1	2 13	3 14	15	16 17	18	19	20 2	1 22	23	24 2	5 26	27	28 2	29 3	0 31
オフ゜シ゛ーホ゛	_	240mg/body	点滴静注	30分		\downarrow											1											1	

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
1	生理食塩液 50mL	血管確保用	20分
2	生理食塩液 50mL	オプジーボ 240 mg/body	30分
3	生理食塩液 50mL	フラッシュ用	適宜

	特 記 事 項
休薬・減量・中止基準	中止:間質性肺炎(G1)、大腸炎・下痢(G2)、肝機能障害(G2)、神経障害(G2)、腎障害(G2)、重度の皮膚障害(G3)、重症筋無力症・心筋炎・筋炎・横紋筋融解症、1型糖尿病、免疫性血小板減少性紫斑病、副腎障害、脳炎、静脈血栓塞栓症、Infusion reaction、心臓障害(異常が認められた場合)。 (詳細は添付文書を参照してください)
主な副作用とその対策	・過度の免疫反応による副作用 他の要因を除外し、必要に応じて専門医と連携するなどし各種 副作用の対処法を参考に、本剤の中止、副腎皮質ステロイドの 投与、ホルモン補充療法等必要な処置を行う
注意事項	・オプジーボはDEHPフリーのフィルター付きラインで点滴 ・本剤投与終了後、最終投与日から1ヶ月以上経過してから重 篤な副作用が発現する例があるため、投与終了後も経過観察を 十分に行うこと。
主要文献	・オプジーボ胃癌の適正使用ガイド ・オプジーボ固定用量への用法・用量変更

登録NO. 77b

登録年月日 2023/11/27

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	外科	部長:古池 真也		切除不能進行・再発胃癌	4w−オプジーボ
作成/確認	薬剤部	荒木寛也 /澤柳直樹・米山英二	/	1 クール 2 8 日間	標準施行回数 : 有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2	3 4	5	6	7	8 9	10	11	12 1	3 14	15	16 1	7 18	19	20 2	1 22	23	24 2	5 26	27 2	8 29	30	31
オプジーボ	_	480mg/body	点滴静注	30分		\downarrow																					\downarrow		

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度等
1	生理食塩液 50mL	血管確保用	20分
2	生理食塩液 50mL	オプジーボ 480 mg/body	30分
3	生理食塩液 50mL	フラッシュ用	適宜

	特 記	事	項		
休薬・減量・中止基準	中止:間質性肺: 経障害(G2)、腎 心筋炎・筋炎・ 紫斑病、副腎障 reaction、心臓 (詳細は添付文:	障害(G2)、 横紋筋融 害、脳炎、 障害(異	重度の 解症、1 静脈血 常が認め	皮膚障害(G3)、 型糖尿病、免疫 栓塞栓症、Infu られた場合)。	性血小板減少性
主な副作用とその対策	・過度の免疫反 他の要因を除外 作用の対処法を 与、ホルモン補	し、必要に、な	こ応じて ¹ 体剤の中	止、副腎皮質ス	
注意事項	1 71332 3 47 3	後、最終技	ひ 与日か	ら1ヶ月以上経	過してから重篤 経過観察を十分
主要文献	・オプジーホ・オプジーホ				変更